

## 第113回取締役会の内容について

IGRいわて銀河鉄道株式会社(代表取締役社長 鈴木敦)では、「第113回取締役会」を開催しました。主な内容は、以下のとおりです。

【資料1】2024年上半期の輸送概況について・・・・・・・・・・・・・・・・ p. 1

【資料2】2024年度決算見通しについて・・・・・・・・・・・・・・・・ p. 2

【資料3】アクションプラン2024上半期の取組状況について・・・・・・・・ p. 3～4

※お問い合わせにつきましては、本日17時30分まで受け付けますので、下記担当までご連絡ください。

## 2024年度上半期の輸送概況について

## ◇ 輸送人員

【単位：人/日】

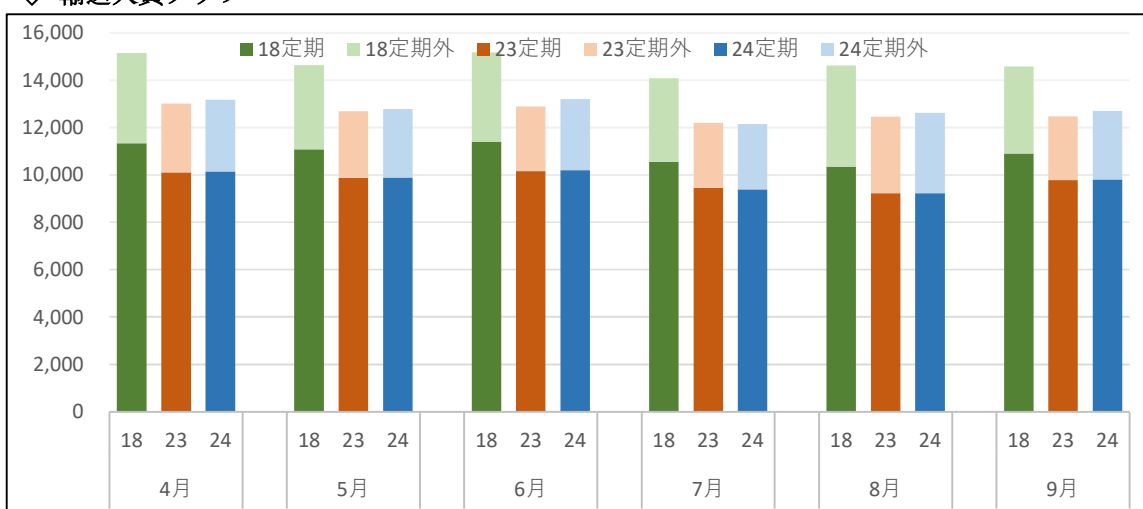
	2024年度	2023年度	増減	対比	2018年度	増減	対比
定 期	9,768	9,760	8	100%	10,929	▲ 1,161	89%
通 勤	3,936	3,898	38	101%	4,323	▲ 387	91%
通 学	5,832	5,862	▲ 30	99%	6,606	▲ 774	88%
定 期 外	2,995	2,856	139	105%	3,765	▲ 770	80%
合 計	12,763	12,616	147	101%	14,694	▲ 1,931	87%

## ◇ 旅客運輸収入

【単位：百万円】

	2024年度	2023年度	増減	対比	2018年度	増減	対比
定 期	262	260	2	101%	302	▲ 40	87%
通 勤	136	132	4	103%	154	▲ 18	88%
通 学	126	128	▲ 2	98%	148	▲ 22	85%
定 期 外	270	264	6	102%	337	▲ 67	80%
合 計	532	524	8	102%	639	▲ 107	83%

## ◇ 輸送人員グラフ



## ◇ 概況（輸送人員）

## 【定期】

概ね2023年度同期比100%、2018年度同期比89%で推移しており、傾向に大きな変化はない。

## 【定期外】

お盆期間中に大雨の影響で運休等が発生したものの、GW期間の利用やさんさ踊り等の大規模イベントの開催に合わせて利用が伸びたことなどから、2023年度同期比で105%と増加した。一方で、2018年度同期比では80%と、依然コロナ禍前までの回復には至っていない。

## 2024年度決算見通しについて

【概要】
<b>■営業損益 ▲282,530千円（当初計画比：14,977千円、前年比：77,664千円）</b> 営業収入は、コロナ禍で減少した利用者の回復の遅れや寝台列車の運行本数の減少、関連事業の営業体制の見直し等により、当初計画から44,431千円の減収となる見通し。 営業費は、車両に関する追加修繕により修繕経費が増加した一方で、退職者の不補充による人件費の削減や各種経費の見直し等により、当初計画から59,408千円の減少となる見通し。営業損益は、営業収入の減収を上回るコスト削減により、当初計画を14,977千円上回るものの、282,530千円の赤字となる見通し。
<b>■当期損益 29,557千円（当初計画比：1,640千円、前年比：▲182,832千円）</b> 当期損益は、県・沿線市町による経営安定化対策交付金（300,000千円）を営業外収益に計上したこと等により、当初計画を1,640千円上回り、29,557千円と2期連続で黒字となる見通し。 なお、2023年度決算（212,389千円）から大幅な減益となる見通しであるが、2023年度決算には、2022年8月の大雨災害による補助金収入等（187,604千円）が計上されていたことが主な要因である。

(単位：千円、税抜)

項目	2024年度 決算見通し A	2024年度 収支計画 B	増減 C (A-B)	摘要	2023年度 決算 D
<b>営業収入</b>	<b>4,084,526</b>	<b>4,128,957</b>	<b>▲ 44,431</b>		<b>4,050,603</b>
旅客運輸収入	1,037,124	1,073,100	▲ 35,976	定期外運賃収入の減	1,048,364
線路使用料収入	2,859,467	2,858,462	1,005		2,781,224
運輸雑収 関連事業収入 商品売上	187,935	197,395	▲ 9,460	事業の営業体制の見直しによる減	221,014
<b>営業費</b>	<b>4,367,056</b>	<b>4,426,464</b>	<b>▲ 59,408</b>		<b>4,410,798</b>
人件費	1,048,455	1,078,666	▲ 30,211	退職者の不補充等による減	1,065,493
業務費	718,397	768,714	▲ 50,317	各種経費の見直しによる減	732,282
修繕経費	2,046,466	2,019,483	26,983	車両に関する追加修繕に伴う増	2,067,355
諸税	164,215	165,025	▲ 810		162,035
減価償却費	389,523	394,576	▲ 5,053		383,633
<b>営業損益</b>	<b>▲ 282,530</b>	<b>▲ 297,507</b>	<b>14,977</b>		<b>▲ 360,194</b>
営業外収益	319,229	318,392	837	いわて銀河鉄道経営安定化対策交付金 (300,000千円)	332,045
営業外費用	22,719	18,837	3,882	金利上昇に伴う支払利息の増	21,596
<b>経常損益</b>	<b>13,980</b>	<b>2,048</b>	<b>11,932</b>		<b>▲ 49,746</b>
特別利益	172,801	169,537	3,264		345,064
特別損失	133,357	133,357	0		108,499
<b>税引前当期損益</b>	<b>53,424</b>	<b>38,228</b>	<b>15,196</b>		<b>186,819</b>
法人税等	7,826	10,310	▲ 2,484		13,641
法人税等調整額	16,041	-	16,041		▲ 39,211
<b>当期損益</b>	<b>29,557</b>	<b>27,917</b>	<b>1,640</b>		<b>212,389</b>

※千円未満端数処理の関係で、各項目の合計と合致しない場合がある。

## アクションプラン 2024 上半期の取組状況について

### 1. 概要

「経営ビジョン（2023～2032）」及び「中期経営計画（前期：2023～2027）」に基づく単年度の行動計画である「アクションプラン 2024」の上半期における取組状況について報告します。

### 2. 2024 年度上半期の主な取組内容

#### I 【信頼される鉄道】

安全・安定を第一に、安心して利用できる鉄道であり続けます

- ① 異常時対応訓練の実施や、JR貨物や三陸鉄道が主催する脱線復旧訓練、異常時運転取扱訓練への参加等を通じ、緊急時に迅速かつ的確な対応ができるよう技術力・安全意識の継承を進めました。
- ② 春と秋の全国交通安全運動に合わせて、境田川原踏切において、関係機関と連携して沿線住民に踏切事故の注意喚起を行うなど、安全啓発活動を実施しました。
- ③ 6月に3日間、青山小学校1年生の児童を対象に「列車の利用方法」や「踏切通行時の注意」など、鉄道利用に関する鉄道安全教室を実施し、安全意識の醸成を図りました。
- ④ 支持物取替工事やトンネル・橋梁点検工事等を計画的に行うとともに、設備品質の維持・向上を図り、鉄道施設の信頼性確保に努めています。



春の交通安全運動（境田川原踏切）



鉄道安全教室（青山駅）

#### II 【元気な地域】

暮らしやすく、にぎわいのある地域づくりに貢献します

- ① 3月に実施したダイヤ改正の効果を検証するために乗降調査を実施し、お客さまの利用実態を確認しました。また、定期券の更なる利用増を図るため、岩手県立大学と連携し、大学生向けの通学定期「C a m p a s s」のアプリ導入に向けた実証実験等に取り組んでいます。
- ② 小学生向けの「ぎんが列車 自由研究お助け隊」や鉄道ファン向けの「鉄道写真家 中井精也さんと行く IGR 沿線撮り鉄ツアー」など、ターゲットを絞った様々な企画列車を実施し、多くの方に参加いただきました。



鉄道写真家 中井精也さんと行く  
IGR 沿線撮り鉄ツアー

- ③地域の歴史に着目した「各地の専門解説員から学ぶ 旅する南部塾」や「歴史街道を歩く 2024 国指定史跡 奥州街道」など、テーマ別シリーズツアーの造成及び販売を行いました。引き続き地域の魅力を掘り起こし、沿線への誘客を通してにぎわいある地域づくりに取り組みます。
- ④活力ある地域づくりや街づくりに参画するため、岩手県地域公共交通活性化協議会や盛岡都市圏地域公共交通会議等に鉄道事業者として出席し、意見交換を行いました。
- ⑤昨年に引き続き、企画きっぷの販売を行いました。販売に当たっては、SNS等による周知に取り組んでいます。



各地の専門解説員から学ぶ  
旅する南部塾

### Ⅲ 【挑戦する組織】

常にチャレンジ精神をもち、成長する企業をめざします

- ①工事費及び維持管理費の低減を図るため、工法の見直しや鉄道設備のスリム化、長寿命化に向けた検討及び施工を今後も行っていきます。
- ②ノートパソコンを導入し、打合せ等に活用するなど、業務の効率化に取り組みました。今後については、検討を進めているキャッシュレス乗車システムの導入をはじめとしたDXの推進により、人員の効率的な配置等に取り組みます。
- ③アクリルスタンドやラバーキーホルダー、カレンダーを新たに制作し、駅や通信販売サイト、県内外のイベントで販売しました。今後も特色あるグッズを制作していきます。
- ④社員から経営ビジョンに沿った企画を募集する社内公募制度を実施し、48の企画提案がありました。各企画の実施に向けて検討を進めていきます。
- ⑤新たな収入の確保に向け、未利用地や未利用スペースの貸付を開始しました。引き続き、遊休資産の有効活用に取り組んでいきます。

#### 新発売のグッズ（イメージ画像）



アクリルスタンド（全5種）



ラバーキーホルダー

#### 2025 CALENDAR



2025 カレンダー